

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 6

福音書において (6)

神の言

聖書：ヨハネ 1:1, 3, 14, 16-18, 29, 32, 42, 51

I. ヨハネ第1章は、ヨハネによる福音書全体の導入であり、この導入の主要な強調は、キリストが神の言、すなわち奥義的で、見えない神の定義、説明、表現であるということです——1節：

A. 神の言としてのキリストは、偉大な「わたしはある」、すなわち自ら存在し、永遠に存在する方です。彼は永遠であり、始めも終わりもない方です——出 3:14-15. ヨハネ 8:24, 28, 58. ヘブル 7:3。

B. ヨハネ第 1 章は、永遠と時間の橋という二つの区分を伴って、宇宙の歴史における五つの偉大な出来事、すなわち創造、肉体と成ること、贖い、油塗り、建造におけるキリストに言及しています——参照、詩 90:1-2：

1. ヨハネによる福音書全体の序言としてのヨハネ第 1 章は、永遠の過去において言であった「旅をする」三一の神が、永遠の将来において究極的に新エルサレムとなるという歴史の要約です—— 1, 51 節。

2. ヨハネ第 1 章が結晶化の方法で見せているのは、永遠の言が彼の創造する働きにおいて、また時間の橋を越える彼の旅において、肉体と成って彼の法理的な贖いを達成し、また油塗り、命を与え、造り変える霊が彼の有機的な救いを遂行し、また究極的に、ご自身の再生され、造り変えられ、栄光化された花嫁と完全に結合され、ミングリングされ、合併されて新エルサレム、究極のベテル、神と人の住まいとなるということです。

C. これら五つの宇宙的で、歴史的な出来事において、神の言であるキリストは、(1：創造における創造主として、2：肉体に成ることにおいてわたしたちの間に幕屋を張られた人として、3：贖いにおける小羊として、4：造り変えにおける油塗る霊として、5：神の建造のために地と天を結び付けるはしごととして) 見えない神を定義し、説明し、表現します——参照、1 節. 10:35. エペソ 6:17. ヨハネ 6:63。

II. 神の言であるキリストは、神の創造を通して神のために語ります——1:3：

A. 「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。昼は昼に言葉を発し、夜は夜に知識を告げる。話もなく、言葉もなく、その声も聞かれない」——詩 19:1-3。

B. 「神の見えない永遠の力と神性の特徴は、世界が創造されて以来、明らかに見られており、造られた物によって認められているので、彼らには弁解の余地がありません」——ローマ 1:20。

- C. 使徒第 14 章 15 節から 17 節と第 17 章 24 節から 29 節において言及されていることは、神のために語るキリストの創造を啓示するという同じ目的を果たします——参照、ヘブル 11:3, 1:2, コロサイ 1:15-17, ハガイ 2:7。

Ⅲ. 神の言であるキリストは、彼が肉体と成って神の幕屋となることを通して神のために語ります——ヨハネ 1:14 :

- A. 言は、肉体と成ることによって、神を人性の中へともたらしただけではなく、神にとって幕屋となり、人の間で地上にある神の住まいとなり、恵みと実際に満ちていました :
1. 律法は、神が何であるかにしたがって人に要求します。恵みは、神が何であるかを人に供給して、神が要求することを満たします—— 17 節。
 2. 「わたしたちはみな、彼の豊満から、恵みの上にさらに恵みを受けた」—— 16 節。
- B. 彼は肉体に成ることにおいて、三一の神の具体化となり、神を人にもたらし、神を接触し、触れ、受け入れ、経験し、入り、享受することができる方としました。
- C. 彼は神・人となり、神性を人性の中へともたらし、神性と人性をミングリングしました。
- D. 神のひとり子が肉体と成ることはまた、御言、命、光、恵み、実際の中で神を人に宣言（説明）することでもあります—— 18 節 :
1. 言は表現され、説明され、定義された神であり、それは人が神を理解するためです。
 2. 命は分け与えられる神であり、それは人が神を受け入れるためです。
 3. 光は輝く神であり、それは人が照らされて、神にあずかるためです。
 4. 恵みは人によって享受される神であり、それは人がご自身の豊富にあずかるためです。
 5. 実際は人によって実際化された神であり、それは人が神を会得し、知るためです。

Ⅳ. 神の言であるキリストは、贖いのための神の小羊となることを通して、神のために語ります——29, 36節 :

- A. キリストは、失われた世の人を贖うために神の小羊となることにおいて、どのように神がご自身の義にしたがって、手続きとしてのご自身の死を通して、法理的にご自身の贖いを達成したかをわたしたちに語ります。
- B. 神の小羊は、旧約のすべてのささげ物の成就としての肉体の中にある言を表徴しており、神の完全な贖いを達成します——ヘブル 10:5-10 :
1. キリストは、罪のためのささげ物、違反のためのささげ物、全焼のささげ物、穀物のささげ物、平安のささげ物、揺り動かすささげ物、挙げるささげ物、注ぎのささげ物の実際です。
 2. すべてのささげ物としてのキリストと共に、わたしたちは完全な贖いを持ち、この贖いを経験し、享受することができます。

- V. 神の言であるキリストは、油塗る霊と成って、神の贖われた民を石（ヨハネ1:32-42節）へと造り変え、新約のために神の家（ベテル—51節）を有機的に建造することを通して、神のために語ります：
- A. キリストは、油塗る、命を与える、造り変える霊（Iコリント 15:45）と成ることにおいて、どのように神がご自身の心の願いにしたがって、神聖な定められた御旨のために、ご自身の神聖な命によって、有機的に神のエコノミーを遂行するかをわたしたちにさらに語ります。
- B. わたしたちは注意深くなって、わたしたちの日常生活において、わたしたちの霊の中の油塗る霊としてのキリストを置き換えないようにしなければなりません——Iヨハネ 2:20, 27：
1. キリストは油塗られた方であり、油塗る方と油塗りになります。反キリストの原則において生きるとは、反油塗りであることです（「反」は、「敵対して」、「の代わりに、の代理で」を意味します）——8, 22節. 4:3. IIヨハネ 7.
 2. 反キリストであることは、キリストに敵対することであり、他のものでキリストを置き換えることです。
 3. もしわたしたちがわたしたち自身の振るまいや性格でキリストを置き換えるなら、ある事柄がキリストご自身に置き換わることを許すという意味において、反キリストの原則にあずかっています——参照、ピリピ 1:21. 4:4-9.
 4. わたしたちは反キリストの原則、すなわち文化、宗教、倫理、天然の観念が内なる油塗りとしてのキリストに置き換わるということにおいて日常生活をしていることのゆえに悔い改める必要があります。これが反油塗り、すなわち三一の神がわたしたちの内側で動き、働き、浸透することに反対することです。
 5. わたしたちは次のように祈るべきです、「主よ、わたしたちは三一の神が動き、働き、浸透することである油塗りの中で、油塗りと共に、油塗りを通して、油塗りによって生き、歩きたいです」。
- C. 油塗る霊であるとは、創造された人を再生し、天然の人を油塗り、生ける石へと造り変え、造り変えられた人を結合します。
- D. ペテロが回心した時、主はペテロ、すなわち石という新しい名を彼に与えました（ヨハネ 1:42）。またペテロがキリストに関する啓示を受けた時、主はご自身が岩、すなわち石であるということをさらに啓示しました（マタイ 16:16-18）。これら二つの出来事によってペテロは、キリストと彼の信者たちの両方が神の建造のための石であるという印象を受けました（Iペテロ 2:4-8）。
- VI. 神の言であるキリストは、神の建造のために天（神）を地（人）にもたらし、地（人）を天（神）と結合して、一とならせるはしごとなることを通して神のために語ります——ヨハネ1:51. 創28:11-22：
- A. キリストは、ベテルにおける天のはしごであることにおいて、神がどれほど地上でご自身の贖われ、造り変えられた選民で構成されている家を持ち、それによって神が天を地にもたらし、地を天に結合して、永遠にわたって二つを一に

するかを願っているかをわたしたちに語ります。

- B. ヤコブの夢はキリストの啓示です。なぜなら、キリストは、ヤコブがベテルで見たはしご、すなわち神の家の実際であるからです—— 12 節. ヨハネ 1:51 :
1. わたしたちの再生された霊、すなわち今日の神の住まいは (エペソ 2:22)、地上の基礎であり、そこにキリストが天のはしごとして設置されています (II テモテ 4:22)。
 2. 天の門であるベテル、神の家、神の住まいにおいて、キリストは地を天に結び付け、天を地にもたらしはしごです。そのゆえに、わたしたちは霊に戻るときはいつでも、神をわたしたちにもたらし、わたしたちを神にもたらしはしごとしてのキリストを経験します。
 3. 天のはしごとしてのキリストの結果は、神の建造、すなわちベテル、召会、キリストのからだであり、このはしごの究極的完成は新エルサレムです。
- C. 「主の再来は、彼を追い求める者たちの堅固な建造を必要とします。この建造は、彼が地を占有するための踏み石、橋頭保となり、神と人の両方の相互の住まいとなるでしょう。それは永遠に神性と人性との、また人性と神性とのミングリングであるでしょう……この建造はヤコブの夢の究極的な成就であるだけでなく、神の永遠のご計画の究極的な成就でもあります。それは時間の橋を終わらせ、未来の祝福された永遠を導入します。わたしたちはその建造のためであり、その建造でなければなりません！」 (ヨハネによる福音書ライフスタディ第 5 編)。